

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493000218	事業の開始年月日	平成24年3月31日
		指定年月日	平成24年3月31日
法人名	社会福祉法人愛成会		
事業所名	ヴィラ愛成		
所在地	(242-0017) 大和市大和東1-13-17		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年12月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年6月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/14/index.php?>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「愛成相和」としてお互いが助け合い支え合って感謝の気持ちを持ってサービス提供をおこなうことをスタッフが共有して実践できるよう心掛けている。また運営方針として利用者の「生きる意欲や喜び」「癒し」の充足に努めている。新型コロナウイルス感染拡大の防止の為、今年度は予定されていた様々な地域との催し物を中止してきた。感染拡大と生活の質を保つことの両方に力を入れ、Web面会や感染防止策を呈した面会方法を取ると共に、散歩や体操、ドライブなどの積極的な取り組みを行ってきた。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年1月22日	評価機関 評価決定日	令和3年4月16日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 事業所は、相鉄本線大和駅から徒歩7分程の静かな住宅地に立地している。玄関を入り左右に分かれて、グループホームと小規模多機能型居宅介護事業所を併設した鉄骨造り2階建ての建物である。新型コロナ禍で中断しているが、例年は併設の事業所と合同で、防災訓練や運営推進会議、地域交流祭等を行い連携している。併設の事業所から、顔なじみの職員や利用者がある当事業所へ移られる方も複数おり、安心感のある利用開始へと繋がっている。 【新型コロナ禍での外出支援】 外出しない和不穏になる方や散歩を希望する方が多く、緊急事態宣言発令時以外は外に出ている。感染防止策をして人けのない所を選んで散歩したり、目的地に着いても車から降りずに、窓を開け外気浴して戻るドライブを全職員が協力し実施している。利用者の希望に添い、職員と自宅に行き換気をして戻る等の支援もしている。外出を望まない方は、屋上やベランダで外気浴をしている。 【食事を楽しむ支援】 利用者の「美味しいものを食べたい」との声に応じ、週に1度業者の献立を特別食に変更している。パンのワゴン車販売を呼んでパンを選んだり、ドライブの途中にソフトクリームを食べる、外食する、卓上で焼そば等を作る、カップケーキを作る等、積極的に食事を楽しむ支援をしている。利用者の摂食機能が低下した際に食形態の変化に対応できるように、摂食障害セミナーのWeb研修を受講し備えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヴィラ愛成グループホーム
ユニット名	愛

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	ヴィラ愛成グループホーム
ユニット名	心

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛成相和」という共助の理念をスタッフの入職時、また定期的な面談で理念を共有して実践できるよう取り組んでいる。	法人の理念「愛成相和」を事業所の理念としている。フロア会議で取り上げたり廊下に掲示して職員間で理念を共有している。管理者は、日常のケアで問題や課題があった時に、理念に立ち返って考え支援するよう職員に伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して自治会の会合などに積極的に参加するなどして交流をしている。また運営推進会議開催都度自治会、民生委員、地域の皆様に参加して頂いている。今年度は議題書類の送付とご意見の郵便投函を求め、会議開催の代替策とした。	大和東伸和自治会に加入している。例年は自治会主催の縁側カフェやお祭りなどに参加し交流していた。また、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で近所の方を招待する餅つきや地域交流会も行っていた。更にボランティア（体操、フラダンス、ドックセラピーなど）との交流をしていたが今年度は新型コロナ感染防止のためいずれも中止となっている。11月に専門学校の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年参加していたRUN伴は中止になり、地域サロンや交流がほとんどないなかで、地域包括支援センターによる「認知症カフェ」が参加人数を制限して行われた。ボランティアとして参加した。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の有識者、市職員、地域包括支援センター職員、に活動状況報告書を各方面にお渡しし、活動報告に対するアドバイスをもらいサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で奇数月に開催している。メンバーは、利用者、家族、近隣住民、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、市の職員、事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所の職員である。新型コロナ感染予防のため今年度1回目より書面開催している。事業所の「活動状況報告書」と質問・意見を記入する感想欄を設けた「活動報告への確認のご依頼」の書面を郵送し、意見などを聞いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大和市からのコロナ対策関連メールを日々確認し、マスクや手袋などの備品管理を行っている。グループホーム連絡会に参加し市内グループホームの感染対策など情報共有に務めている。	大和市介護保険課の窓口へ外部評価結果などを持参したり運営推進会議への参加依頼等で連絡をしている。グループホーム連絡会に出席した際に担当職員と関係を築いている。生活保護費を受給している利用者が数名おり、生活援護課の職員とは、金銭面の相談などで連絡を取り実情を伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルに基づいてフロア会議や施設内勉強会の場で切迫性、非代替性、一時性がない限り、身体拘束は行わないということを各職員へ周知、徹底している。	玄関と2階のユニットの扉は開錠している。施錠が身体拘束にあたることは認識したうえで開錠に向けた話し合いを重ねているものの、単独外出して警察に捜索依頼をした経緯から現在、1階ユニットの扉は施錠している。荷物をまとめだす等出たいそぶりが見られる方については、利用者の特徴を把握して、職員が付き添って外に出ている。フロア会議や勉強会で身体的拘束適正化に関する話し合いをしている。身体拘束の対象となる具体的な行為について年1回研修で学び、身体拘束や虐待をしないケアに努めている。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備し、研修などは記録に残すことを期待します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修・勉強会に管理者や職員が参加して職員へ虐待防止のための周知を徹底している。また虐待防止マニュアルを作成して事業所内で回覧や勉強会を行い共通認識を持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止、高齢者の権利擁護の研修を行ない、新人スタッフには神奈川県が発行する研修用レジュメを配布している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、理解を得るよう努めている。また変更点があった際にも説明、納得を図って同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情の場を外部に表せる機関を重要事項説明書に記載して説明を行っている。また運営推進会議で頂いた意見を運営に反映させている。	「サービス提供に関するお知らせ」を毎月発行したり、家族のメールで写真を送り、利用者の近況を家族などに知らせている。緊急事態宣言発令時はオンライン面会を実施し、それ以外の時期は風通しの良い廊下などで面会をしている。家族会は今年度開催できていないが、来訪時や電話で家族等に意見を聞いている。会えないので情報が欲しい等の要望に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやフロア会議、また定期面談の機会を活かして職員の意見を聞き、運営に反映させるよう努めている。	日々の申し送りや毎月開催しているフロア会議で職員の意見や提案を吸い上げ、利用者のケア等に反映している。1階ユニットの扉は現在施錠しているが、「利用者の状態や職員の協力体制が取れる時間帯には可能な限り開錠してはどうか」などの職員の意見について、検討を重ねている。個人面談は、管理者が判断して必要時に実施し、相談などに応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自、入職後一定期間経過した後面談を行い個々の勤務状況の把握や目標設定をして向上心を持ちながら働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を2ヶ月に1回開催し、スタッフのスキルアップに努めている。また、施設外研修にも参加してもらい、参加スタッフはフロア会議等でフィードバックして他スタッフと情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に行なわれている事業所同士の連絡会での交流や職員の交換研修、ほかにも地域包括支援センター主催の認知症カフェにも参加してサービスの質の向上への取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談の機会や介護計画作成前にご本人の不安な面やニーズなどを把握して安心してサービス利用が出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前から事前面接の機会等にて家族の不安、求めていることに対し、親身に受け止め信頼関係を築くことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、まず何が必要であるか客観的に見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活の中で一緒に食事を作ったり、掃除をしたりなど職員と利用者が共に暮らしを支えているという関係作りができるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人が安心して生活ができる様、ご家族、職員で共に支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族、知人とのコミュニケーションを通して馴染みの人や場所への理解を深め、関係が途切れず継続できるよう支援している。	友人、趣味の仲間、職場の元同僚などが来訪している。新型コロナ感染防止のため、面談は風通しのよい廊下で行う等、条件つきで実施し、馴染みの関係を保っている。電話を希望する方には、取次ぎをしている。新型コロナ禍で今は中断しているが、職員と馴染みの理美容店や駅前の和食屋へ出かけたり、家族と墓参りへ出かけている。演歌歌手のファンクラブに継続して所属し、会報誌を定期購読して楽しむ方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲストの相性、個性を把握し孤立しないよう意識し、努めている。共に暮らす方同士、一緒に家事を行い、散歩やおしゃべり、買い物をする事で関係性の強化、トラブルの防止に繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会に行ったり、電話などにて相談に応じるなどして断ち切らない関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において常に本人の意思、希望を優先したケアを行なうよう努めている。	利用開始時のアセスメントや日々の関わりの中で利用者や家族から思いを聞いている。夜勤者と1対1になれる就寝時の会話などから意向を把握する事も多い。「自宅の庭が気にかかる」方には、ボランティアに剪定を依頼し本人の意向に応じている。意向の把握が困難な方は、バイタルチェックや顔色、動き等の日々の観察から変化を捉え、職員間で情報共有している。決められた場所で喫煙する方がおり、ライターは職員が管理している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接にてアセスメントを行い、生活歴、生活環境、サービス利用の経過等把握するよう努めている。入居後も会話の中で得られた情報は、共有できる様、記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者毎に一日の様子を記録し、申し送りや連絡ノートの活用などにより職員間で情報の共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を十分に取り入れた介護計画を作成している。	「健康で穏やかに暮らしたい」など、本人、家族の意向や医師などからの意見も反映して短期目標6ヵ月、長期目標12ヵ月の介護計画書を作成している。毎月モニタリングを行い、計画作成に繋げている。通常は6ヶ月で見直し、変化があればその都度見直している。管理者は、介護計画をふまえた記録をするよう職員に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の中で職員が気づいた点を連絡ノートに記録して情報を共有し、それを集約し介護計画に反映させている。フロア会議等でもカンファレンスを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化、ニーズに対応して柔軟なサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、自治会等の協力を得ながら日々の生活を楽しめるよう支援している。 また、地域の行事（お祭り、自治会活動）への積極的参加や地域資源の活用など行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医療を取り入れ受診援助を行っており、緊急時にも主治医の指示を仰ぐことのできる体制をとっている。	かかりつけ医の選択は自由で、1名が従来からのかかりつけ医師を、その他の方は、協力医療機関（総合内科医）の医師の往診を月2回受けている。歯科医は毎週訪問し口腔ケアや必要時に治療を行っている。整形外科等の専門医への受診は、定期通院は家族が同行している。その際は受診結果を聞き取り申し送りノートやケア記録に残し内容を共有している。突発的なものは職員が同行している。小規模多機能型居宅介護事業所と兼務している看護師が、週2回訪問し健康チェックを行い利用者の健康に留意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報交換を密にし必要都度適切な受診に結び付けられるようにしたり、必要な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適時お見舞いに行くなどして病院職員、家族との情報交換や相談に努め不安を感じないよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より重度化した場合での本人、家族の希望について話し合いをしている。利用者の状態変化時にも主治医、家族、本人と話し合いをしている。運営推進会議の場で地域の関係者にも相談、報告をしている。	契約時に「利用者の急変時や重度化した場合等に於ける対応に係る指針」で事業所の方針を本人や家族に説明して共有し同意書を得ている。重度化した際は、医師から直接家族に説明してもらい、本人や家族が希望し納得したうえで看取りを行っており、この1年で2名の看取りの経験がある。その際には、慣れない職員のフォローのために、LINEでやりとりできる環境を整え、いつでも相談できる体制にしている。また、看取り後は振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時についてのマニュアルを作成して職員に周知しているが、訓練を定期的には行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を行っている。消防隊員、近隣の方にも立ち会って頂き指導を受けています。毎年大和市消防本部で行われている防火実務者研修会や自治会の防災訓練に参加をしている。	例年であれば地域の方の協力が得られるが、新型コロナ禍で職員のみでの防災訓練を2020年7月に実施した。今年3月に2回目の訓練を実施する予定である。ハザードマップで事業所の災害リスクを把握している。災害時の備蓄食品は「備蓄品在庫及び賞味期限一覧表」で管理している。その他、懐中電灯やカセットコンロを準備している。家具等の転倒防止策や防寒対策などはしていない。	必要備蓄品を整理・確認、簡易トイレ等を加える等して災害に備えることが望まれます。併せて、転倒防止策をして、更なる安全管理が図られる事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛け、対応をし、記録等もプライバシーに配慮した取り扱いをしている。	身体拘束に関する研修の中で、合わせてプライバシーについても学んでいる。入浴している方の性別が分かるよう脱衣所に札を下げ、担当職員のみが関わるようにして、利用者の羞恥心に配慮している。利用者の呼称は「さん」付けすることを基本にしている。ケア記録入力用タブレットは、パスワード管理している。契約時に使用目的などを記載した「写真使用に関する同意書」を家族等と交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の希望を聞き、個々に応じて可能な限り対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを大切に し、希望にそった日々を送る ことができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援 している	訪問理美容（または馴染みの美 容室）の利用や日々の洋服の選 択について自己決定して頂くよ うに支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力 を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片 付けをしている	食事の準備や後片付けに参加し てもらいなどして食事を楽しめ るような雰囲気づくりを行って いる。 季節の旬の食べ物を召し上がっ たり、外食支援を行ったりして いる。	専門業者の献立に従い食材を職員が調理 し提供している。利用者の状態に合わせ て刻み食などを提供している。利用者 は、食器洗いやお盆拭きなどをしてい る。利用者の「美味しいものを食べたい 」という声に応じ、週に1度業者の献 立を中止して鉄板焼きなどに変更してい る。今は新型コロナ禍で外食は見合わせ ているが、パンのワゴン車販売を呼んで パン選びをしたり、ドライブの途中でソ フトクリームを食べる、卓上で焼そばを 作ったりして、食事を楽しめるよう支援 している。摂食機能が低下した際に食形 態の変化により対応できるよう、摂食障 害セミナーのWeb研修を受講し備えてい る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保で きるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を している	利用者の一人ひとりのADL及び 食べる量や状態に合わせて普通 食からミキサー食及びムース食 までを提供して支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方には毎食後口腔ケアを実施している。歯科衛生士による指導や勉強会を通じてスタッフの口腔ケア技術の向上に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の意思や思い、お身体の状態を把握し、能力に合わせて極力トイレで排泄できる様支援している。失敗の際も羞恥心や自尊心に配慮し声掛けを行なっている。	利用者の排泄リズムを「ケア記録」で把握し、トイレでの排泄を促している。リズムを把握しタイミングよく声かけすることで、失禁回数が減少した方や、おむつ使用からリハビリパンツ使用に替わった方がいる。夜間は、不安解消のため吸収力のあるパットに変える方など、一人ひとりの力に応じた支援をしている。発熱時にはポータブルトイレを使う事がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力自力排便を促すため、体を動かす時間を多く取り入れたり、食事に気を遣ったりしている。慢性的な便秘の方は医師の指示で便秘薬を処方して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者一人ひとりの体調及び希望により入浴を促している。強制はせずに入浴して良かったと言っていたようにしている。拒否のある方には毎日の声掛けやどんな声掛けで入浴できたか情報を共有している。	週2回、利用者の体調に配慮して入浴している。お湯は入浴ごとに一人ずつ入れ替えている。より多くの入浴を希望する方や同性介助を希望する方の対応をしている。入浴を好まない方には、屋上で会話を楽しんだ帰りに入浴を促したり、「足を洗いましょう」など声かけを工夫したりして入浴を促している。ゆず湯など、リラックスした環境を提供することを心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や身体状況に応じて休息できるよう配慮したり、日中の余暇活動を支援して夜間安心して眠れるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬方法、目的等は医師や薬剤師からの助言を受け、薬の説明ファイルを設置して確認出来るようにしている。副作用等、異常の早期発見と対応が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが充実した毎日を送れるよう、料理の手伝い、嗜好品の買い物支援を行うなどの個別支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望に合わせ、出来る限り外出支援を行なっている。家に帰りたいと話される方の一時帰宅支援も行っている。	新型コロナ禍ではあるが、外出しないと不穩になる方や散歩を希望する方が複数おり、緊急事態宣言発令期間以外は散歩をしている。その際は1、2階で協力しあって、マスクを着用して人気の少ない道を選んでいる。また、目的地に着いても、車から降りずに窓を開けて外気浴をして戻るドライブを実施し戸外に出ている。職員と利用者が空家になっている利用者の自宅に行き、換気などをして戻る支援もしている。外出を望まない方は、屋上やベランダで外気浴をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルが生じないように配慮して、能力に応じて各人のお金で買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望等が聞かれる都度、制限なくできるよう支援している。ご自分で携帯電話をもって自由に会話を楽しまれている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は生活感が感じられるよう家庭的な雰囲気づくりを心がけている。また季節感を感じられるよう花などを飾って工夫している。	リビングの光が入る所にソファを置き、くつろげるようにしている。3～4時間ごとに換気を行い、手が触れる所の消毒や室内の掃除を職員が行い清潔を保っている。季節感を取り入れて、クリスマスツリーや松飾、凧、花が描かれた掛け軸、生花などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを配置して、好きな場所を自由に選べることできて個々にゆったり過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持込の制限なくできるだけ馴染みのものを持ち込むよう促している。冷蔵庫やオーディオなどの家電製品の持ち込みや購入の支援も行う。	事業所が備えた洗面台、クローゼット、エアコン、照明器具がある。「優雅に暮らしたい」という思いのある利用者が、使い慣れた、鏡、絵画を壁にかけたり、コーヒーテーブルに布を引いて花を飾るなどしている。仏壇、ベッド、縫いぐるみ、ラジオ、テレビ、家族の写真、時計等、利用者それぞれが思いおもいの品を持ち込んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々のできること、わかることを活かせるよう手すりの設置、段差の解消により安全かつ、自立した生活を送れるよう工夫している。		

